

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



東京マンドリンアンサンブル・クインテットの皆様

秋彼岸会法要

平成27年9月23日(水・祝)

心の音楽・

マンドリンアンサンブル

秋

晴れの日となった9月23日、境内では昨年に引き続き萬福寺護持会による「芋煮会」が行われ、彼岸の墓参に訪れた参詣者に振る舞われました。

本堂では午後1時から「心の音楽」東京マンドリンアンサンブル・クインテット(田中早苗様を中心に東京マンドリンアンサンブルのピックアップメンバーで構成)によるマンドリン演奏が行われ、クラシックから歌謡曲・童謡まで、哀愁を帯びたマンドリンの調べが本堂いっぱいに響き渡りました。

続いて彼岸会法要が安本利正ご住職様



芋煮会

式師のもと厳かに営まれ、僧侶の皆様による読経のなか、参詣者全員で御焼香いたしました。

なお、春・秋の彼岸会法要では毎回、皆様に参加して頂ける「落語」や「心の音楽」などを企画しております。お誘い合わせのうえ、お気軽にご参詣ください。

新盆供養・孟蘭盆会法要

平成27年7月13日(月)

自分を見つめ直す機会

お盆の中、7月13日正午から本堂で新盆供養、続いて午後1時から法話、午後2時から孟蘭盆会法要が執り行われました。

新盆供養では今年新盆を迎えた約200名の御親族が出席し、安本利正ご住職始め10名の僧侶の御供養をいただき、故人への思いを新たにしました。

曹洞宗関東東管区教化センター主監、茨城県笠間市・高寅寺ご住職、北条和之老師は法話で「仏教では、人は死んだら全てがなくなる、生きている間に好きなことをすべきた、供養などしなくてもよいという『断見』と、人は亡くなっても靈魂として存在していることを信じきって、

今の生活をないがしろにする『常見』の、どちらの考え方もいましめています。どちらにもとらわれることなく、自分の生活を正しく見つめていくことが大切です。その機会が、このお盆です」と話されました。

大施餓鬼会法要

平成27年7月23日(木)

40名の僧侶による法要

大施餓鬼法要に先立って午後1時から、駒澤大学名誉教授・田上太秀講師による法話が行われました。法話では「観音菩薩様の首飾りは真珠のネックレスです。これは、すべての煩惱から離れた、清浄な姿であることを表し、どんな願いもかなえます」とお話をいただきました。

その後行われた法要では、本堂一杯に参列者が見守る中、40名の僧侶による莊嚴にして迫力のある読経・法



鬼子母神祈願法要

平成27年10月28日(水)

鬼子母神像2体を併せてお祀り

子の孫繁栄を願って、10月28日に鬼子母神祈願法要が執り行われました。法要に先立ち、安本利正ご住職様から、「本日は2体の鬼子母神様をお飾りしました。一番高い所にあるのが、日蓮様が本山に持ってきたもので、その下はレプリカです。日蓮様は旅の際に鬼子母神像を持ち歩くものですから、いつ壊れてもいようにレプリカを1体作っておかれました。今日は一緒に祀りました」とお話がありました。

